

日時：平成29年4月12日(水)16:00～
場所：気象庁大会議室(5階)

議題

- (1) 今後の活動方針
- (2) 活動内容
 < 人材育成、新規気象ビジネスモデルの創出、
 活動のプロモーション・会員間のコミュニケーション等 >
- (3) コンソーシアムの運営について
- (4) 第1回セミナーについて
- (5) 第2回気象ビジネスフォーラムについて
- (6) 今後のスケジュール

今後の活動方針

技術に関する取組

先進モデルの創出

➤ 気象データ利用の先端事例創出に向けた実証実験 (共同調査、データ分析コンテスト等)

<例>

- ・ 気象庁が新たに提供するデータの、先端的技術を駆使した利用事例の創出
- ・ 新たな産業分野での気象データ利用事例の創出

人材育成

➤ 気象庁や会員が提供するデータ(XML電文、数値予報データ、ひまわり8号・9号データ)に関する知見の共有

➤ 会員が有する気象データ分析に必要な先端的技術(IoT、AI、ビッグデータ解析等)に関する知見の共有

環境整備

➤ 気象庁が新たに提供するデータに対するニーズの集約や利用手法の検証

利活用・普及に関する取組

普及啓発

➤ 気象ビジネスフォーラムの地方開催

➤ 他のコンソーシアム・団体 (AITC、VLED等) との連携 (気象データ利活用事例の解説)

➤ 海外事例の現地調査・共有

人材育成

➤ 会員が提供する気象サービス、気象庁が調査・収集した気象データ活用事例に関する知見の共有

➤ 会員が先端的ICTを活用して気象データや各種オープンデータを分析した事例の共有

➤ 会員の業務で実践する、気象データの利活用事例(公表ベース)の共有

環境整備

➤ 気象データの利活用に関する課題の集約、対応策の検討

スタートアップ・メニュー

- 「技術」「利活用・普及」に関するワーキンググループを設置 運営委員会での正式決定後に周知
- 会員・気象庁による気象データ解説、分析に必要な先端的技術動向の解説、気象データ利活用事例の解説をセットにしたセミナーを隔月で実施 (第1回を5月に開催)

(2) 活動内容(案)

< 1. 人材育成 >

セミナーの開催

気象ビジネスに必要な技術面及びビジネス面の知見の習得・意見交換を行うため、以下のような内容についてセミナーを開催する。個別のセミナーについては、内容の性質や対象などにより、「入門編」、「技術編」、「ビジネス編」などの副題を付与することも検討。

- ・気象データの全体像や特性の紹介
- ・衛星データ、数値予報データ等の技術解説
- ・IoT、AI等の先進技術の紹介
- ・XML電文の気象データの活用事例紹介
- ・海外等を含む気象ビジネスの先進事例紹介
- ・気象ビジネスに関係する調査結果や情報の交換

【参考】気象庁が行ってきた産業利用促進ワークショップ等のテーマ

- 損害保険会社の取り組み
- 気温予測情報を用いた水稲刈取適期の予測
- アパレル業界における気温予測活用の取り組み
- 省エネ物流プロジェクト(天気予報で物流を変える)
- エアコン需要予報への取り組み
- 農業IoTと気象データの産業利用
- 農研機構における2週間先までの予測情報の活用 の現状
- スーパーマーケット及びコンビニエンスストア分野における気候リスク評価に関する調査

見学会の開催

気象庁の業務現場や会員企業の見学を実施。

(2) 活動内容(案)

< 2. 新規気象ビジネスモデルの創出 >

気象データ活用プロジェクトの実施

気象ビジネスの高度化に向けて、気象データと他のデータとの連携や先端技術を活用した気象データの利用を促進するプロジェクト(対象とする産業や気象データ等のテーマを設定したアイデアソン・ハッカソン、気象データの利用効果を検証する実証実験等)を産学官で連携して行う。

プロジェクトについて行動計画を策定して計画的に推進しつつ、成果を気象ビジネスフォーラム(年度後半)で発展性、新規性等の観点から表彰することで、気象ビジネスモデルの創出につなげる。

調査・研究

気象ビジネスに関連する文献や海外事例等について、文献調査やヒアリングを行い、会員間で共有を行う。

気象ビジネスの推進にむけた課題の把握

気象ビジネスの発展を目指すために解決が必要な課題について幅広い観点から議論を行う。

(2) 活動内容(案)

< 3. 活動のプロモーション、会員間のコミュニケーション等 >

コンソーシアムの略称・ロゴの作成

コンソーシアムのプロモーションを推進するため、コンソーシアムの略称、ロゴを作成する。(ロゴの作成についてはクラウドソーシングの利用も検討。)

コンソーシアムのHPの設置

現在は気象庁ホームページの下位ページとしてコンソーシアムのページを設置しているが独立したHPの設置を検討。

ニュースレターの発行

メーリングリストで気象庁や会員から定期的に気象データ活用事例等の情報提供を行う。

コミュニケーションツールの整備

会員間で意見・情報を日常的に交換できるよう、SNS等によるコミュニケーションツールを整備する。

広報活動

活動成果を幅広く広報するとともにコンソーシアム会員の拡大を図るため、気象庁記者クラブや既存のイベントなど多様な機会、手段を利用して積極的なプロモーションを行う。

他の団体との連携、地方展開の推進

効果的にコンソーシアムの活動を社会に波及させるため、他団体との連携や地方への展開を図る。

(3) コンソーシアムの運営(案)

ワーキンググループ(WG)の設置

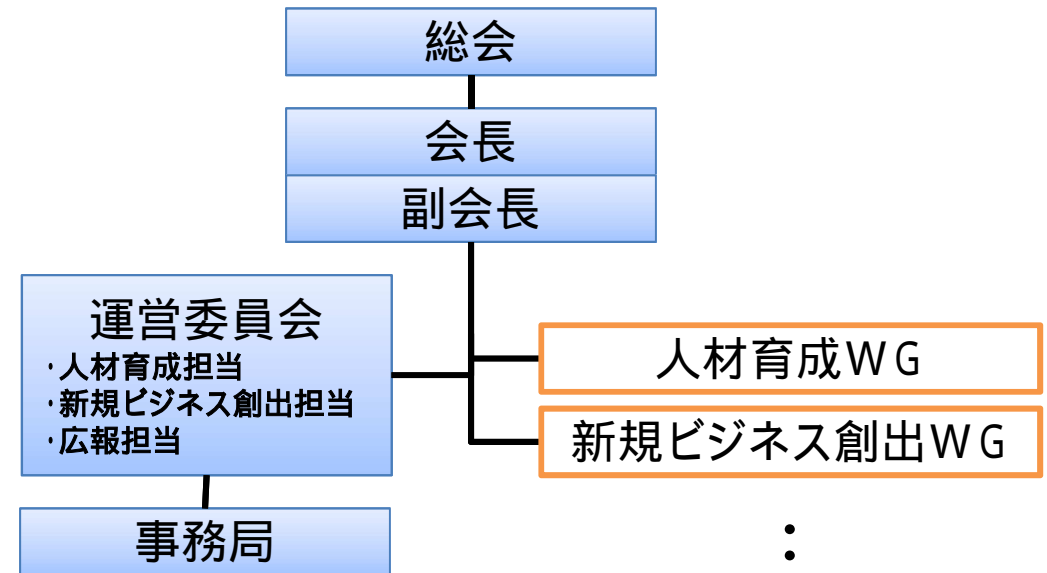
今年度の活動体制として、総会および運営委員会に加え、活動の企画・実施の主体としてワーキンググループ(WG)を設置する。

各WGは参加希望の会員と運営委員で構成し、構成員の互選で座長と座長補佐(仮称)を選任し、活動の企画と実施を推進する。

【設置案】

人材育成WG(仮称)

新規ビジネス創出WG(仮称)



運営委員会の運営について

運営委員会に出席する委員の報酬、旅費について
(事務局案) 運営委員会について報酬、旅費を支給しない。

運営委員会の発言及び配布する資料の取り扱い
(事務局案) 会議の議事概要については事務局が作成し、各委員の確認を経たものを公開する。事務局の配布資料については原則公開とするが、委員が資料を配布した場合、公開の要否は配布した委員の希望に従う。

(4) 第1回セミナーについて(案)

内容

- ・気象庁のデータの全体像(気象庁)
- ・気象リスク管理の基礎(気象庁)
- ・気象ビジネスの具体例について紹介・議論の場を設ける

対象

コンソーシアム会員

時期

5月下旬

場所

気象庁大会議室又は講堂

(5) 第2回気象ビジネスフォーラムについて(案)

気象ビジネスに関係する者が一堂に集まる場として、第2回の「気象ビジネスフォーラム」を、第1回及び本年度のセミナー等を踏まえて企画し、年度後半に開催する。

第1回に引き続き、気象ビジネスの発展に向けた知見の共有と、会員相互のビジネスマッチングの機会の提供を行いつつ、本年度のプロジェクトの表彰をはじめとしてコンソーシアム活動の成果発表を行う。

(6) 今後のスケジュール(案)

運営委員会

→ コンソーシアムの運営体制が整備されるまで、当面は月1回程度で開催

WG

→ WGのメンバーについて会員から募集を行い、第2回運営委員会開催時を目処に活動を開始する。

セミナー

→ 第1回を5月に開催すると共に、第2回以降については人材育成WG(仮称)が内容の検討を行い、運営委員会の承認/了解をもって開催し、事務局が支援を行う。